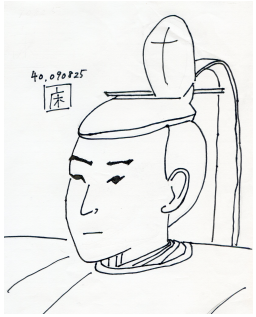
44　天保の改革



19世紀前半、国内では天保の飢饉で離村する農民や下層町人の増大、百姓一揆や打ちこわしの頻発が顕著となり、一方、対外面では異国船の出没が相次ぐ状況となっていた。
12代将軍__家慶__
__水野忠邦__浜松藩主のときに藩政改革断行。1839年老中首座、11代家斉没後に天保の改革を主導。

実力者	政治･社会	経済など
水野忠邦	**天保の改革** ①【__人返しの法__】 ▸出稼ぎ・奉公を抑制し、江戸に流入した離村農民の__帰農__を**強制**、農村の荒廃を回復しようとした。 ※旧里帰農令は帰農を奨励 ③【**綱紀粛正**】__為永春水__を処罰した▸「__春色梅児誉美__」 __柳亭種彦__を処罰した ▸合巻「__紫田舎源氏__」 ④【**旗本･御家人救済**】 __棄捐令__が出された。 ⑤【__薪水給与令__】1842 ▸異国船打払令の緩和、アヘン戦争脅威 ⑥【__上知令__】 ▸__江戸・大坂__周辺を幕領化（失敗） 水野忠邦失脚の素	①__倹約令__ ▸富くじ、質屋、祭礼、料理等 ②1841__株仲間解散令__ 商取引を自由化し、物価引下げの実現をめざしたものだったが、株仲間の解散は商品流通の混乱を招き、かえって物価を高騰させた。10年後の1851年、株仲間の解散が事実上無視されるなかで、幕府は、しょ商品流通の阻害を避けるという名目で（__株仲間再興令__）を出した。

1840　幕府、__三方領知替__（川越藩・庄内藩・長岡藩）を行なおうとするが失敗。
⇛川越藩の財政援助目的だったが他の藩が反対。幕府の土地支配権弱体化を露呈する。
これは、江戸湾の防備を担当する武蔵川越藩が、家斉の息子斉省｛なりさだ｝を養子に迎え、生産地の高い領地への転封を願い出た。幕府は、酒田・新潟両港の不取締を理由に、川越藩（15 万石）の松平家を出羽庄内、庄内藩の酒井氏（14 万石）を越後長岡、長岡藩の牧野氏（6 万石）を川越に移す転封令を出した。これを聞いた庄内藩領民は反対一揆を起こし、粘り強く戦った。川越藩は苛酷な収奪で有名なこと、庄内藩には多大な貸金や年貢の前払いがあり、これが反故にされることへの不満が強かったのである。
1841　家斉没

マニュファクチュアの成立

POINT

①【**問屋制家内工業**】
問屋商人が農民などに原料や器具を前貸し、加工賃を払って生産物を引きとる経営形態をいう。

②【**マニュファクチュア（工場制手工業）**】
地主や問屋商人（資本家）が設置した同一作業場内で、生産工程を単純な工程にわけ、賃金労働者が分業にもとづく協業をおこなって商品を生産する形態をいう。農業から離れた奉公人のほか、女性や子どもまでが賃金労働者として雇われることがあった。ただし、機械ではなく、道具を利用した工業形態であるため、その生産力にはもともと限界があった。
　尾張の綿織物業や（__桐生__）（__足利__）等の絹織物業で天保期から行われ始めた。近世当初、桐生・足利地域では、（__居座機__）で生産した生絹を西陣に送っていたが、1738年、（__高機__）が導入され絹織物生産地として発展した。江戸時代前期においても摂津の（__伊丹__）池田（__灘__）等の酒造業でこうしたマニュファクチュア経営が見られた。

江戸の地廻り経済圏

真岡（木綿）
佐原（酒・みりん）
（絹織物）八王子　→　**江戸**　←野田・銚子（醤油）
上方→　◎在郷町人の成長
（下り物＝高級品など）

藩政改革

天保期前後の時期、諸藩でも危機克服のため藩政改革が展開された。特に、__薩長土肥__などの諸藩（__雄藩__）は、有能な藩士の登用、巨額な借財の整理、__藩営工業__の展開、軍事力の増強などによって雄藩力の強化を果たし幕末の政局を大きく左右していくことになった。

藩主	藩名	
島津斉彬	**薩摩**	下級武士から登用された家老➡__調所広郷__が推進。①負債の 250 年賦②__黒砂糖__の専売制③**琉球密貿易**で藩政改革成功。反射炉築造など軍事力の強化もはかられた。
毛利敬親	**長州**	⇛__村田清風__を登用。負債の 37 年賦返済②__越荷方__（倉庫・貸金業）の設置③紙・蝋の専売
鍋島直正	**肥前**	日本最初の__反射炉__を製造し、日本初の鉄製大砲の鋳造に成功。__均田制__（本百姓に対し、小作地をいったん収公して一部を地主に再給付し、残りを小作人に分ける）を実施。__陶磁器__（有田焼）の専売制をしく。
山内豊信	**土佐**	号容堂。吉田東洋・後藤象二郎らを登用し改革推進。
徳川斉昭	**水戸**	会沢安・藤田東湖を登用。藩校弘道館を設立。藩内で反対にあい挫折。

思想・文化の弾圧　☆南町奉行＿鳥居耀蔵＿(通称 ・甲斐守→「妖怪」)

⇖江戸の妖怪　鳥居耀蔵

風俗取締りの大元締めで、陰険残忍な性格で、人を憎んだら徹底的に憎みとおした。出世欲旺盛で、嫉妬心が猛烈に強い。こんな男が権力をもつと、好き好んで用いるのは、密告を大いに利用し、一方では隠密をはなってデッチ上げでもなんでも狙ったものを陥れる。検挙したら情状酌量もなく最大級の残忍酷薄さで処罰するのだ。芝居、寄席のほか、蛮社の獄など耀蔵が一枚くわわっている。早稲田大社会科学部2005では「**鳥居耀蔵**」をこう出題した。（略）…老中水野忠邦は、幕政の刷新に着手した。「享保寛政の御政治」を改革の指針として、倹約令や(3)人返しの法などを出した。それまで目付だった（　D　）が江戸町奉行になると…。

幕末の外交 1792～1860

	列強の接近	幕府の対応
田沼時代	1778(安永 7)露船、蝦夷地＿厚岸＿に来航	1783(天明3)＿工藤平助＿『赤蝦夷風説考』 ↓ [露との交易・蝦夷地開発計画] 田沼を触発(俵物) 1786(天明6)＿最上徳内＿ら蝦夷地探検
松平定信	1792（寛政 4）＿ラクスマン＿（露）＿根室＿ 来航（エカチェリーナ２世） ↓ 大黒屋光太夫らを送還 ＿桂川甫周＿『北槎聞略』	1792　＿林子平＿『海国兵談』 『三国通覧図説』発禁 1798（寛政 10）＿近藤重蔵＿蝦夷地探検 1799（寛政 11）東蝦夷地直轄 1800（寛政 12）＿伊能忠敬＿蝦夷地測量
文化・文政期	1804(文化1)＿レザノフ＿（露）＿長崎＿来航 滞在６ヵ月　通商要求拒絶 部下が樺太・択捉などを 攻撃 1808(文化 5)＿フェートン号＿事件（英） ↓長崎奉行（　松平康英　）自害 以後、英船による掠奪行為がしばしば 発生 1828（文政 11）＿シーボルト＿事件 高橋景保『蛮書和解御用』地図持ち出し	1806（文化 3）＿文化の懲恤令＿ 1807（文化 4）＿全蝦夷地直轄＿ 1808＿間宮林蔵＿（間宮海峡発見） 1811（文化 8）＿ゴローウニン＿事件（露） ↓　『日本幽囚記』 1813（文化 10）＿高田屋嘉兵衛＿と交換 1825（文政 8）＿異国船打払令＿
天保期	1837(天保8)＿モリソン号＿事件(米) 浦賀に来るが撃退される 1840～42✖＿アヘン戦争＿(清の敗北) し 1842＿南京条約＿ 清が香港を割譲	1839＿蛮社の獄＿　幕政批判 尚歯会（＿渡辺崋山　・　高野長英＿） 処罰 崋山「＿慎機論＿」長英「＿戊戌夢物語＿」 1842(天保 13)＿天保の薪水給与令＿

近藤重蔵・間宮林蔵・最上徳内・伊能忠敬の行路